

編集後記 WAKU WAKU させて

5月のGWに、ずっと見たかった富士山と芝桜の風景を見に行ってきました。

いよいよ本栖湖に近づき富士山が姿をあらわすと、もう僕のワクワクは止まりません。

ふとバスの車窓から富士山を撮ろうとタブレットのカメラを向けると、富士山を見て嬉しそうにはしゃいでいる子どもたちが視界に入ってきました。

「おっちゃんもおんなじ気持ちやで。一緒に走ったら足がツルけどな。」って心の中で話しかけながら、撮ったのが表紙の写真。(^^ゞ

前日までの悪天候が嘘みたいに快復してくれて、本当にラッキーでした。

草野心平さんの詩の一節「夢みるわたくしの 富士の祭典」を思い起させる情景に出会えましたからね。そして本栖湖に着いて撮ったものが右の写真です。



文部科学省と厚生労働省は5月18日、今春卒業した大学生の就職率が過去最高を更新したと発表し、

翌日の日経朝刊では「大卒のほぼ全員が就職できる『全就職』時代となった」と報じました。

また、入社してもすぐに辞める社員が増えている傾向にあり、企業にとっては、選んでもらえる職場づくりとあわせて、つなぎとめる取り組みが重い課題となっているようです。

「カイシャの評判」という会社の口コミを集めたサイトをご存知でしょうか？

このサイトの信憑性については何ともいえないのですが、評判スコアで分類されている

6つの口コミ指標はいわば重要視ポイントなので会社運営側としては意識した方がいいですね。

- ① 職場の人間関係
- ② 承認・称賛する社風
- ③ 仕事を通じた達成感
- ④ 仕事を通じた成長感
- ⑤ 責任・権限のある仕事
- ⑥ 本業での社会貢献の実感

<https://en-hyouban.com/>

今春に日本ハムファイターズに入団した早稲田実業高校の清宮選手が、ドラフト会議前に指名を希望する10球団と面談をしたことで話題になりました。

彼が知っていたのは、自分がその球団に行ってもう成長できるのか、だったそうです。

ひと昔前なら、入団交渉といえば契約金や背番号の話がメインだったと思います。

若者の意識はずいぶん変わったのです。



国会の「働き方改革」にまつわる審議は与野党の論戦が深まらぬまま衆院を通ろうとしています。

しかし国の法改正や施策がどうであれ、各企業それぞれで、自分の会社の発展と継続の為に、今の時代をどう乗り切るか経営者はもちろん社員一人ひとりが考える時期に来ているのだと感じています。

何も長時間労働対策だけが「働き方改革」ではありません。

「働き方改革」の風は、企業にとって大ナタを振るうことができるチャンスでもあります。

「求人してもなかなか応募がない、頑張っていた社員が退職願を出してきた。」なんて話、よく耳にするようにも思いますが、もし皆さんの会社でも、人事労務の分野において何がしかの課題を感じてらっしゃるのであれば、この「働き方改革」の風を追い風にして、改革を進めてはいかがでしょうか。

人は、希望や期待が持てる時にワクワクするように思います。(^^)／

もしかすると、労働者にとって選択肢の多い今の時代、働き方改革の中で会社が特に考えなければいけないのは、社員から会社への期待感、会社と自分たちの将来へのワクワク感かもしれません。

